

醉眼流旅日記 第12回

第12回

ベトナム青春旅行（五）

村松友視（作家）

サインゴンへ着いた日の夜、隣の部屋から若い女が二人やつて来て、半開きになつて私の部屋をノックした。一人はかなりの美女、一人はかなりの……：彼女たちは姉妹だと言つていた。どちらが姉か妹かは分らないが、見分けはすぐにつくだろう……私は、水牛のステーキでとりあえず腹を満たした余裕から、そんな冗談めいた囁やきを喉の奥に浮かべる余裕が生じていた。

「ボーカーしない?」

二人でボーカーをやっているが、仲間に入らないかと、彼女たちは私を自分たちの部屋へ誘つた。美女とボーカーも一興……私は馴れたような態度をつくつて、ベッドから立ち上つた。ここでナメられたらあとがむずかしいという気分があつたのもたしかだつた。

彼女たちのいる奥の部屋は、私の部屋より少し広いくらいだが、ベッドは一つだった。小さなテーブルの上に、ボーカーのやりかけといった感じで、トランプが散らばっていた。

彼女たちは、賭けボーカーをやろうと言っているのではなく、一緒に遊ぼうという感じだった。ボーカーをやっているあいだ、いろいろなことを話した。

ボーカーをやりながら、こんな姉妹が隣の部屋にいるのは楽しいな、と思つた。彼女たちがずっと滞在しているのなら、ぜひとも仲良くなりたい……そんな気持が私の中で大きく羽を広げていつた。姉妹、彼女たちと書いているが、私の目は美女の方にだけ向けられていた。彼女は、顔も美しいが性格もよさそうで、ときどき上目遣いにこっちを見る表情が、たまらなく魅力的だった。

やがて、私は自分の部屋へ戻つた。賭けないボーカーの楽しさにはかぎりがあるし、英語で話しつづけることの疲れもあつた。しかし、美女の表情は、部屋へ戻つた私の目にしつかりと灼きついていた。それから、しばらくうとうとしたような気がする。彼女たちの部屋で飲んだのは、ビールや酒ではなく

が、半分くらいしか意味が分らなかつた。彼女たちは流暢な英語を話し、私の耳がとらえるにはかなり早い喋り方だつた。ただ、年齢はいくつだと聞かれて、二十七だと答えると、二人が顔を見合わせて笑い合つたのは解せなかつた。彼女たちは、私がそんなに上の年齢であるはずがないと言うのだ。いくつくらいに見える？ そう聞いてみると、十八、九だと言われて、今度はこつちが笑つてしまつた。

カット／灘本唯人
題字／筆者



「むらまつ・ともみ」 一九四〇年東京生まれ。慶應義塾大学文学部卒。六三年中央公論社に入社。「小説中央公論」「婦人公論」「海」編集部員を経て、八年退社。八年「時代屋の女房」で直木賞受賞。主な著書は「私、プロレスの味方です」「百合子さんは何色」、「アブサン物語」「激しい夢」など。



コカコーラだったから、酔いのために眠くなつたのではなかつた。羽田を発つてからの時間が、徐々に疲労としてたまつていたのだろう。こんなベトナム戦争のさなか、何を好んでおまえはサイゴンなんかへやつて来たんだ……自分にそう問い合わせると、ふてくされたような答えが浮んでは消え、やがて私は眠りに入つていた。

しばらくすると、隣の部屋からとどく脹やかな人声で目が覚めた。二人の女性の声に、男の英語が混つていた。嬌声が聞えたかと思うと、何かを投げる音や、転をぶつけ合う音がして、笑い声がひびきわたつた。薄い壁だな……私は、緩慢な動作でベッドから起き上つた。

そのとき、ドアをノックする音がして、開けると美女が廊下に立つていた。美女は、自分の部屋の方をふり返りながら、友だちが来て泊つていくので、ベッドが足りないと言つた。それならベッドを運んで行つてもいいよと言うと、そうではなくて私の部屋へ泊めてほしいと言うのだ。サイゴンへ着く早々、奇妙なことになつたものだと、私は大きくうなづいた。

すると、美女とするりと入れ替るようにして、もう一人の女が私の部屋へ入つて来て、自分の眠るベッドを目で探した。ここはアメリカ兵用の連れ込み宿で、美女はさつきの声の主のオンリーらしい。もう一人の女は、ベッドの端に腰をおろすと、私に向つて人差指を唇の前に当ててチエックする仕種をした。悪いこと考え方や駄目よ……そういう表情だつた。

■特別講演「神戸復興のイメージ戦略」を語る



芸術都市宣言のススメ 神戸を「癒しの町」に

新井 満

(長野冬季オリンピック・イメージ監修)

去る四月二十一日、ホテルオークラ神戸での「神戸っ子祭り'97」に新井満さんをお迎えした。音楽・映像プロデューサーとして活躍する傍ら、一九八八年には「尋ね人の時間」で第99回芥川賞を受賞。作家、作詞家、作曲家、歌手と多方面でその才能を發揮されている。今回は、「『神戸復興のイメージ戦略』を語る」と題して、神戸の近未来像を語っていました。

★聖火の最終ランナーは…

長野冬季オリンピック開会式の演出は、劇団四季の浅利慶太さん、音楽監督は小澤征爾さん、そしてイメージ監督が新井満ということで進行中です。さて、新井は一体何をやっているのかといいますと、まず、長野五輪のコンセプトを作りました。一年ほどかけていろんな方々と対談しながら考えたのが、「愛と参加」です。次に、開会式のシナリオを書きました。つい先日記者会見で発表したばかりです。もちろんまだ発表していない部分もございます。例えば、聖火の最終ランナーは誰がやるのか。口が裂けても言えないんですが、本日は久しぶりに神戸の皆さんに再会であります。もちろんまだ発表していない部分もございます。さて、月刊神戸っ子三十六周年のおめでたい席でもございま

ますので、皆さんにだけそっと教えたいたいと思います。最終ランナーは男性ではなく、女性でいきたいと思います。しかも一人ではなく二人の女性。日本中の誰もが知っている大変有名な女性で、なおかつオリンピックにふさわしい名前を持ち主でございます。さあ、一体誰でしょうか。それでは申し上げましょう。……聖火の最終ランナーは、金さんと銀さんです(笑)。もう一人、銅さんがいればもっとよかつたんですけどれども(爆笑)。ただこのプラン、あくまでもプランであります。まだ公式ではございませんし、了解も得てはおりません。心配なのは、果たしてこのお二人、上手に点火できるかな、と。二つ目は、聖火台までの約五十メートルの階段を上ることができるかどうか、三番目は、マイナス二十度の気温に耐えられるかどうか、そして一番の心配は、お二人のご健康です。聖火の点火者には一体誰がなるのか? 来年の二月の開会式を楽しみにして頂きたいと思います。

★三十三年前の恐怖体験

新井はこれまで様々なことをやつてきましたが、そういう人間が神戸復興のイメージをどういう風に考えている

か。神戸の復興を考える場合、二つの側面があります。一つはハード、もう一つはソフトです。神戸に於けるハードの復興は大変ではあります、意外と簡単、要するに建て直したらしいわけです。しかし、ソフトの方、神戸に住み暮らす人々の精神的な復興は相当に難しいだろうと思います。こう申し上げますと皆さん私に文句を言うかも知れない。神戸以外の人間がどうしてそんなことが言えるのかと。しかし私には、神戸の皆さんに向かって発言できる権利と義務がございます。何故かといいますと、私が地震の被災者という意味で皆さんの先輩だからです。

私の故郷は新潟です。今からもう三十三年前になりますが、昭和三十九年、この年の六月十九日の午後一時一分四十秒というものは私の人生で決して忘れられない時刻です。マグニチュード7.5という神戸に匹敵する、あるいはそれ以上の大地震が故郷を襲いました。当時は高三で、高校



★トラウマは治らない

しかし、皆さん、本当に気をつけなければいけないのはこれからなんです。地震直後は緊張しておりますから割と平気なんですけれども、これが一年後、三年後、十年後が危ない。何故危ないかと言いますと、怪我です。傷のことです。それも心の傷のことです。傷には二種類ございます。身体の傷、これは外から見えますから薬で治すこともできます。しかし、心の傷の方は外からは見えません。そして、こればかりは治す薬がない。この心の傷のことをトラウマといいます。新潟地震で私は怪我一つしなかつたんですが、大変な恐怖体験をいたしまして、心に深い傷を負つて

校舎が信濃川のほとりに建つておきました。三階の教室から見ていましたら、グラントがまるで映画「天地創造」をみるようでした。教室の窓ガラスは壊れて粉々になり、ナイフのようになつて道路に降り注ぎました。市内の道路はいたるところ陥没、隆起しまして、ほとんどの建物が全壊しました。信濃川に架かった橋の橋脚たはドミノ倒しのように落ちるし、次の瞬間、信濃川の水が干上がり、日本海の海水が逆流し、津波になつて襲い掛かつてきました。逃げました。逃げて逃げて命からがらようやく我が家に辿り着いたら、我が家は泥水の底に沈んでいたというわけです。火事も起こりました。石油タンク群が炎上して三百六十時間燃え続けました。最後は米軍の消火弾でようやく消し止めました。火攻め、水攻めとはまさにこのことで、あれが地獄だったんだなと思います。今でも地震がきて足元がちよつとでも揺れますと、頭のてっぺんから背中にかけて氷のようにならざる水がさつと流れ落ちます。地震だけは経験しないと分からぬですね。私は今神戸の皆さんに初めて三十三年前のことを申し上げておりますが、文字通りの同情相憐れむで、怖かったね、ひどい目にあつたね、でも死ななくてよかつたね、と言い合えるわけです。

しました。重傷のトラウマです。このトラウマが一年後に出てしまつた。大学に入学してすぐの頃、心の傷が原因で発病しまして、入院して手術を受け、死ぬ一歩手前でございました。私のような例は他にもたくさんあります。新潟地震に限りません。神戸の皆さん、どうか気をつけてほしいんです。眠っているトラウマがいつあらわれるか分かりません。夜中に怖い夢を見る、あるいは、道を歩いていて突然耳が聞こえなくなるということはないでしょか。丸一年経つて今年あたりが一番危ないんじやないか。

★「感動」を贈ろう

それでは、トラウマ・心の傷はどうやって治すかといいますと、残念ながら治す薬はございません。じゃあ、どうしたらいいのか、一つだけ方法がございます。それは、忘れるしかないということなんです。トラウマを忘れるようなことをする。心の傷、悲しい記憶を忘れるようなこと、つまり、それ以上の心の震えを作るということ、それを感じ動ともいいます。それじゃ、何に感動するかといいますと、これは作家の加賀乙彦さんから聞いたお話を。神戸地震から三日後、加賀さんはリュックサックに食料・水・薬を入れ、もう一ついかにも加賀さんらしいものを持ってやつてまいりました。それは何であつたか。加賀さんは東京を発つ前の日に東京中の花屋さんを回つて持てるだけのチューリップの花を買つたんだそうです。そして神戸へやつてきて、焼け跡にぼう然と立つ人々に水やパンや薬をあげました。しかし、人々は水やパンや薬をもらつて「ありがとう」とは言つても、皆、顔は無表情でした。ところが、最後に加賀さんが真赤に咲いた一輪のチューリップを手渡すと、皆泣いたんだそうです。何故泣いたのか、その気持ちは分かるような気がいたします。一生懸命咲いている一輪のチューリップを見て、自分はまだ生きているんだなと実感されたからじゃないか。つまり、美しいものに出会つた

時の心の震えといいますか、感動がトラウマ・心の傷を一瞬だけかも知れませんが忘れさせてくれたんじやないか。トラウマに辛うじて打ち勝つものは、美しいもの、一輪のチューリップのようなものではないかと申し上げたいのです。しかし、誤解しないで頂きたいのは、神戸の方々にこれからもたくさんのチューリップが送られてくる、そんなことで不安を忘れてほしいと言うつもりは全くないんです。そうではなくて、チューリップを受け取る人ではなくて、是非チューリップを贈る側の人々に早くなつてほしい。先日、NHKテレビの「未来潮流」という番組がありまして、テーマが「癒し」でした。現代人は皆、どんな人も心に傷を持つております。百人いたら百人までが自分の心の傷を誰かに癒してほしい、癒されたい、癒されたいと思つている。しかし、そのようにただ癒しを待つだけの人間は、ついに癒されることはないだろうと申し上げました。逆に、自分以外の人間や植物や様々なのいのちを癒そうとする人間だけが、結果的に癒されることになるんじやないか。一輪のチューリップを焼け跡の人々に贈ることによって、加賀さんは自分も癒されたとおっしゃっていました。その言葉を思い出します。

チューリップを言い換えますと、美しいもの、芸術ということです。日本中、世界中から神戸にやつてくる旅人、心に傷を抱いた現代人、トラウマを持った若者達を美しい芸術で癒していく。神戸はかつてファッショングループの花を買つたんだそうです。そして神戸へやつてきました。今度は、芸術都市を宣言してはいかがでしょうか。それも単なる芸術ではなくて、元気のいい芸術。どうか、神戸の皆さんこれまでの受け身から転じて、神戸を訪れるといつのまにか癒される、そんな評判のたつような町作りをと申し上げたい。本日は、地震から丸二年が経つた神戸の皆さんに、芸術都市宣言をすることで神戸の町全体のイメージを「癒しの町」にしてはどうかというお話をさせて頂きました。どうもありがとうございました。



瀬戸田町出身の事業家が建立した耕三寺

地域文化論
〈その204〉

本州四国の西瀬戸ルートに
平山郁夫美術館を見る

米花 稔
(神戸大学・福山大学名誉教授)

JRの車窓からその進行を見続けるうち、いよいよ春開通の明石海峡大橋に対応して、再来年には開通する尾道—今治の西瀬戸ルートの島々をつなぐ本四架橋の地元もその対応を急いでいるようである。この間まで東京芸術大学の学長をしておられた平山郁夫画伯も、ふるさと生口島の瀬戸田町が通過交通路にならないようにと、かねて乞われていた自ら

の美術館設立にふみきられ、町が建設してこの四月に開館した。毎週福山に通っている筆者も早速参觀いでかけた。尾道大橋から向島、そして因島大橋を渡つてかつての造船のまちを通りぬけ、生口橋をへて瀬戸田町までバスの便を利用した。この町は昭和になって当地出身の事業家が亡き母堂のために建立した耕三寺のきわめて特徴的な建築でよく知られるようになったが、その裏隣に対照的な切妻屋根の和風鉄筋コンクリート一部二階建の素朴な新築の平山郁夫美術館を観るのである。

平山氏は中学時代代徒動員で広島で被爆されその後遺症に苦しんだ想いから、平和を願い玄奘三蔵による印度からの仏教東漸の道を辿り、シリクロードをめぐる取材旅行に及ばれたという。開館記念特別展は、作品「広島生変図」から「仏教伝来」をはじめ、シリクロード、大和、そしてふるさとの島の風土にかかるわる作品などの展示で、印象的であった。

地元新聞によると、特別展一ヶ月入館予想三万人を大きくこえて八万三千人の実績であったという。瀬戸田町の人口はこの十年少しづつ減少している約一万人というが、これらの賑いが地域の刺戟になりつつあるようである。

本四三ルートのうち、瀬戸大橋は本州と四国を直結し、明石ルートは



耕山寺の裏に位置する「平山郁夫美術館」

京阪神から国生みの神話の淡路島をへて鳴門をつなぎ、この西瀬戸ルートはいくつもの島々を巡り伊予に至る。三ルートそれぞれ特徴的である。毎週みるNHK大河ドラマ「毛利元就」に今登場している村上水軍はこの西瀬戸ルートの島々を本拠としていたのである。志賀直哉の「暗夜行路」林芙美子の「放浪記」さらには大林宣彦監督の映画によく登場する尾道から、水軍基地のひとつである尾道からこの「島」と美術館」は大林宣彦監督の映画によく登場する多々羅大橋、そして既に橋でつながっている大三島、伯方島、大島から、これも建設進行中の来島大橋による四国今治まで、歴史の時間をこえる話題が豊富である。再来年が待たれる。

★月刊神戸っ子創刊36周年記念パーティ開く

神戸っ子祭り'97元気アップ!

「明日に架ける橋」をテーマに、ホテルオークラ神戸で

吉本晴彦さんの乾杯に会場が湧きました



若柳吉金吾さん大和楽を踊る



東山魁夷画伯からの贈り物と青木会長の花



喜びの小泉兄妹

四月二十二日の夜六時。

あいにくの雨模様にもかかわらず、月刊神戸っ子36周年記念チャリティパーティ会場のホテルオークラ神戸へ、六百名のお客様を平安の間にお迎えして、「神戸っ子祭り'97」が開催された。

特別講演は、長野オリンピックイメージ監督の新井満さん。

新潟地震の恐怖の体験が今も残る新井さんが「神戸復興のイメージ戦略」は何かを、「芸術都市神戸宣言」をと文化復興をキーワードに、一本のチューリップを被災地から世界へとどけることで、こころの元気アップをとりもどせると、さわやかな感銘がのこる三十分の凝縮されたミニ講話であった。

マルチ人間新井満さんの面白躍如。十年目のリサイタルにブルーメール賞が贈られた若柳吉金吾師の祝舞、大和楽「洛中洛外」の素踊りは、創作舞踊の粹。演奏は大和三千世社中、琴・彩岐佳未、鳴物望月太明蔵社中、京都の四季を奏で踊り、清冽な世界

神戸っ子祭り'97
月刊神戸っ子 創刊36周年記念パーティ
第7回神戸っ子販表式 第26回ブルーメール表彰式



右から、森範二さん、野元正さん、赤崎みまささん、島田誠さん、若柳吉金吾さん、山本芳樹さん



新井満さんの講演



新野幸次郎さん

植田紳爾さん

へ誘つた。

続いて、36周年を迎えた月刊神戸っ子へのメッセージは、神戸都市問題研究所の新野幸次郎所長と宝塚歌劇団理事長の植田紳爾先生。

小泉康夫本誌社長は、

「震災から二年三ヶ月。神戸復興への道は、まだ遠い道程ですが、神戸らしく明るく二十一世紀に向って個性ある街づくりを文化復興に力をそそいで頑張ります。ご声援下さい」

次はファンファーレにのせて、第二十六回ブルーメール賞が、文学部門・野元正さん、美術・赤崎みまさん、音楽・島田誠さん、舞台芸術・若柳吉金吾さん、ファンション・山本芳樹さんら五人に贈られた。

そして神戸っ子賞は、日本が誇る画家・東山魁夷画伯へ。

震災から美しく建ち上った大丸神戸店、オープニングを飾った東山魁夷展に神戸市民が、どれほど心癒されたことか……。体調がよくない画伯に代つて森範二・大丸神戸店長が賞を受けて、代表のご挨拶、「東山魁夷先生の個展を、弊社の復興グランドオープン時に開いていただけ、神戸っ子賞を代理で頂くのは光栄の限りです」と。

各受賞者は、新谷透紀さんの制作した女神像のブロンズと、十萬円の受賞金が贈られた。

97神戸酒徒番附の発表を、司会の村上和子さんが高らかに読みあげ、張出横綱の大森一樹監督をはじめ、小室豊允先生、中西勝画伯、マーク



↑ウーマンパワーの
ビール飲み競争

→男たちも負けるな



←左頁は各テーブル風景

●編集部より感謝をこめて
神戸っ子祭り'97へご参加、ご協力、
ご協賛ありがとうございました。心
より御礼申し上げます。



エステル・スキヤルフスキー画伯、
新谷透紀画伯、小山乃里子市会議員、
浅井信雄先生、新井満さん、川上勉
さんら多彩な顔ぶれが壇上に。
吉本晴彦（マルビル社長）さんの
元気な音頭とりで祝盃をあげた。
食事タイムは桃花林の中国料理。
安藤義則グレートブルーのバンド演
奏で、チャリティ福引が始まる。

今宵のショータイムは地元ミュー
ジシャンで“明日に架ける橋”がテ
ーマ。滝えり子、堀郁子、松本幸三、
庵娜（ルナ）、麻鳥千穂さんらが競演
し、会場は橋づくりのジャズ、シャ
ンソン、カンツォーネ、中国の歌な
どに声援が贈られ熱気ムンムン。

続く恒例のサントリリー、アサヒ、
サッポロ、キリン各社のビールのみ
競争は、女性選手もはりきり参加。
いや早いのなんの、優勝したKFS
山下みか子選手のパワーには脱帽！

そしてチャリティ大福引大会は西
村功、望月美佐、中西勝、新谷透紀、
南汎さんらの作品賞が神戸っ子なら
ではの豪華賞。神戸百店会の各賞も
あり、五人のシンガーの手で引きあ
てるという趣向に会場は湧く。
フィナーレは、会場全員で“上を
向いて歩こう”を大合唱。神戸っ子
祭り'97の幕をとじた。〈小泉美喜子〉



神戸の復興はファッショントレーディングから

緒方 学
（神戸市助役・神戸ファッショントレーディング美術館館長）

四月二十五日、ファッショントレーディング都市神戸の新たな拠点として六甲アイランドに「神戸ファッショントレーディング美術館」がオープンしました。震災復興はいつそう進むと、館長の緒方学さんも大きな期待を寄せてています。

★「神戸ファッショントレーディング美術館」「ワールドパールセンター」がファッショントレーディング産業の活動拠点に

「神戸ファッショントレーディング美術館」のオープニングおめでとうございました。館長さんに就任され、まずは抱負からお聞かせいただけますか。

緒方 感激の至りですね。震災をへて、出来上がるまでに

随分時間がかかりましたから、喜びもひとしおです。神戸のファッショントレーディングに関する産業及び文化の振興を図るとともに、二十一世紀に向けて、いつそう飛躍するための活動拠点になればと考えております。

—特徴はどのようなところにありますか。

緒方 衣服にとどまらず映像、音楽、写真、デザインなどのファッショントレーディングの分野を多面的にとらえ、感覚的に「楽しみ、学ぶ」ことができます。

—ファッショントレーディング都市神戸にふさわしいですね。六月一日には「パールパーティ」が、十二、十三日には「神戸国際宝飾展」が開かれました。ポートアイランドの二期に建設が予定されている「ワールドパールセンター」を担つてのことで受けとれます。真珠への期待もますます膨らみますね。

緒方 現在、基本計画を策定中で、二〇〇〇年にオープンの予定です。真珠ミュージアム、真珠に関する情報、人材育成のセンター、あるいは真珠取引、検査の一大拠点として位置付けています。昨年来あこや貝の被害が大きく、真珠業界も厳しい状況にありますからカンフル剤として期待しています。昭和四十八年に「ファッショントレーディング都市宣言」をしてから、ハードからソフトへ、産業の変革期に移行することになりました。ファッショントレーディングの中に含まれる「見る」「着る」「食べる」といった生活文化産業を育てなければなりません。

「神戸ファッショントレーディング美術館は震災復興のシンボル」と緒方学館長





複合施設「神戸ファッションプラザ」のひとつとして「神戸ファッション美術館」はオープン（六甲アイランド）

—先に触れました国際宝飾展では、ヨーロッパはじめ外資系の企業が六十社ほど参加されました。これが布石になつて「ワールドパールセンター」もつくりられるのですね。

うなものがあるのでしょうか？

緒方　神戸経済の復興を先導する企業の誘致体制を強化するため、「産業立地推進本部」の本部長に市長が就任しました。またボーアイ二期は「神戸起業ゾーン」に指定されていますので、税の軽減などの優遇が受けられます。その制度を活用して、外資系を含めた新しい企業を取り込みながら、経済の活性化を図ります。

緒方 理屈抜きにお客さんにお来ていただくことが、産業復興につながります。観光の企画、コンベンションの企画、ゲルメの企画など。もちろん一大集積地である真珠もそうです。お客さんが色々な情報を持ってきてくれますし、景気にも弾みをつけてくれますから。

ています。神戸は日本の真珠の代表として、広く世界に知られています。日本真珠振興会の田崎会長に頑張っていた
だいて、「世界の真珠業界の中に神戸あり」と高らかに宣
言していただきたい。観光客も八割がやつと戻ったという
ところです。神戸は女性に人気がありますから、良質の真
珠をダイレクトに買うことができれば、残りの二割も呼び
戻せます。

「地元企業もほとんど参加されていますし、震災復興への期待のほどなどがうかがえますね。

緒方 「神戸ファッショングループ」のオープンは震災復興のシンボル。「ワールドパールセンター」と共に、神戸の産業の勢いを全国に知らしめなければなりません。神戸市も出来る限りの支援をしていくつもりです。

★生活文化を創造する職人の育成を
—「神戸ファッショング美術館」でも鑑賞だけでなく、若手

緒方 市内に五十人近いマイスターがおられます、主な目的は日本特有のすぐれた技術を後々へ残していくことです。真珠加工も日本特有の技術ではないでしょうか。

り、日仏の文化の交流のためにも今回の「ファンションショーン」の成功を心よりお祝りしております。「ファンションショーン美術館」「ワールドパールセンター」から、藤本先生のような世界で活躍される方が育つてもらいたいですね。

★パールで観光客を呼び戻そう

今こそ。パール・シティ・神戸らしさを

田崎俊作

（田崎真珠社長）



提督ヒゲが新しいトレードマークの田崎社長

西暦二〇〇〇年にはポートアイランドII期に「ワールドパールセンター」が完成。世界の真珠市場の中核都市として、神戸にはますますの発展が期待されています。真珠の街・神戸を内外に大きくアピールすべく、真珠業界を率いる田崎真珠・田崎社長に今後の抱負を語っていただきました。

★神戸から世界へ 真珠情報発信の場に

一六月は真珠の月です。一日には「パールフェスタ」、二日～十四日には「神戸国際宝飾展」が開催されます。までは神戸国際宝飾展の内容からお聞かせいただけますか。

田崎 やはり真珠を中心とした宝飾展です。神戸の会社は

ほとんど出展します。それぞれの会社が個性を打ち出す絶好の機会になるでしょうね。ただ、真珠は真珠、その範疇を超えてはいけないと考えています。西日本最大の宝飾品仕入れの場ですから、ぜひ、全国の小売店さんに見ていただき、この機会に仕入れていただきたい。最近は真珠も丸形だけではなく、変形が注目されています。要は活かし方ですから。真珠にはこんな使い方もあるんだ、という情報発信の場にもなればと思います。

ヨーロッパからも数多く参加します。バブル以降、日本はいい市場ですから狙われているんですよ。真珠が好きな女性が多いですし、流行が伝わるのもはやい。それ一色になってしまっては問題ですが、日本の伝播力には驚かされます。しかも、春夏秋冬、四季があるでしょう。季節に合わせた真珠というものが考えられます。

田崎 特にそれを意識しているわけではありませんが、期を同じくしてそういうお話をがあるので、一緒に盛り上がつていければいいと考えています。震災後、ぼやつとしていると、市場は外国や東京に持つていかれてしまいます。神戸が忘れられないために、今こそ神戸の真珠業界が頑張る時です。「ワールドパールセンター」も神戸らしいものにしていただきたいですね。

まずは、神戸の街を活かすこと。コスモポリタンシティですから外国人が生活しやすいところなんです。外国人の方は非常に自然の美しいところを好みます。ごちやごちやしあ過ぎてはいけない。そういう意味で神戸は都会性もあるし、自然も残っている。この見事な融合を活かしてほしいですね。また、神戸にはポートアイランド、六甲アイランド、ハーバーランドとあります、これらの使い分けをきちっとしていただきたい。どこでも同じようなことをしていくはいけないと思うんです。そして、各企業が協力して全体として神戸Ⅱファッショントピ都市を確立していくかなればいけないと思います。

★時代はアジア 田崎真珠の世界展開

—今年九月には東京・銀座にお店をオープン、中国・上海にも進出してらっしゃいますよね。

田崎 真珠の原価や人件費も低くてすみます。工場の人は半年ほど日本で研修を受けてもらい、帰つてからは、彼らに中心になって仕事を進めてもらいます。中国人の人はよく働く（笑）。希望があつて、いつも目を輝かせています。休みがどうの、残業がどうのというようなことは言わないんですよ。もちろん、不安もあります。共産主義と民主主義が入り交じったような状況で、行政側はどんどん制度を変えていくのにそれが一般には浸透していない。先が見えないんです。

—アメリカはどうでしょうか。

田崎 ニューヨークに店を出しています。ヨーロッパにもあるのですが、何といつてもアメリカは市場が大きい。最近、経済も安定してきましたし、もっと活性化すれば非常に楽しみな市場になります。ただ、管理が大変ですね。個人主義の国ですから皆が勝手なことをやりたがる。時間がかかりました。

しかし、あちらから学ぶことも多いんですよ。商品の並べ方、扱い方などは参考になります。女性の従業員の待遇についても考えさせられますね。頭の回転、ファンションのとり入れなどはやはり女性の方がはやい。女性の感性を活かせる職場作りが必要ででしょうね。

★パリでパール&ファッショントピアーブル

—いよいよ七月にはパリ・サントノーレで、デザイナー・藤本ハルミさんのオートクチュールコレクションが開催されます。今年はパリが「日本年」にあたり、参加行事の一環として先生のショードミネートされました。

田崎 できるだけ協力しますよ。先生のオートクチュールに合わせて、ぜひ日本の真珠も宣伝していただきなければ（笑）。ご成功をお祈りしています。



—足早く開催された東京の国際宝飾展

神戸ファッショントリート健在なり

鬼塚喜八郎

（財）神戸ファッショントリート会長



「藤本先生の作品は日本代表としても相応しい」と鬼塚喜八郎会長。

七月には「デザイナー」の藤本ハルミさんがパリでファッショントリートを行います。世界へ活躍の場を求める神戸ファッショントリート界！ 健在ぶりを発信する絶好のチャンスです。神戸ファッショントリート協会の鬼塚喜八郎会長に期待のほどを伺いました。

★世界市場で活躍する真珠産業

—震災から二年四ヶ月がたちました。神戸ファッショントリート業の復興はいかがでしようか。

鬼塚 震災で神戸の産業界は大きな被害を受けましたが、ファッショントリート業の立ち上がりは早かったです。

平成七年の五月にはファッショントリート産業界挙げて、KOBE MESSE（神戸産業復興合同見本市）を行いました。産業復興の中、ファッショントリート産業に対する期待も大きいものがあります。震災をバネに産業の高度化、活性化に取り組む業界の動きも出始めていますね。真珠産業もそうです。—パールシティ神戸と称するだけあって、産業復興を真珠にかける期待は大きいのではないかでしようか。

鬼塚 神戸のファッショントリート産業の中でも特に、神戸の真珠は世界的に知られています。国内真珠の加工、流通の八割以上が神戸に集まり、世界最大の集散地になっています。それに、世界からバイヤーが神戸にやって来て、真珠の八割以上が神戸を経由して世界に流れています。六月一日は真珠の日として「パールフェスタ」を行つておられます、真珠文化の飛躍を誓うとの目的もあります。

—二〇〇〇年には「パールフェスタ」を二回開催する予定で、二回目が完成しますね。

鬼塚 世界の真珠が神戸から流通しますから、ビジネスマシンも増えることは明らかですね。兵庫県下のファッショントリート産業の発展にも貢献するでしょうし、「真珠ミュージアム」が完成すれば観光の中核にもなります。「ワールドパールセンター」は、ファッショントリート都市神戸、アーバンリゾート都市神戸の新たな拠点となることでしょう。大いに期待しています。

★ 日仏伝統文化を融合する

とパリでも大輪を咲かせてくれるはずです。

—七月にパリで行われる藤本ハルミ先生の「ファッショニショーン」が楽しめますね。

藤本先生のショーンは当神戸ファッショニ協会のメンバーである「コウベファッショニモディリスト」が主催していますから、わたしも応援しています。震災時に世界中の方々から支援を受けた神戸、兵庫の代表として感謝と「神戸のファッショニは健在です」とアドバルーンをあげたいと使命に燃えておられます。

—今年フランスは「日本年」にあたり、参加行事の一環としてノミネートされています。日本古来のファッショニ、着物地をつかつた藤本先生の作品は日本代表としても相応しいですね。

鬼塚 藤本先生の作品を拝見するといつも感心するのですが、友禅や西陣の幽玄、奥ゆかしさがヨーロッパのオートクチュールのカッティングとうまく合わさってますね。人間でなく、ヨーロッパのオートクチュールに新風を吹き込んでいる。おそらくヨーロッパのどこをさがしても見つけすることはできないでしょう。藤本先生のショーンは、きっと



着物地や帯地、日本の伝統素材を基調とした藤本ハルミ先生の作品

★ 秋は「ファッショニイベントが目白押し

—鬼塚さんは「神戸ファッショニ美術館」の副館長もなっていますね。

鬼塚 「ファッショニ都市神戸」の新たな拠点としてオーブンしたのがこの美術館です。ファッショニに関する産業と文化の振興を図る日本初のミュージアムですから、市民、企業、クリエーター、学生の皆さんに大いに利用していただきたいですね。当協会が事業主体となつて「神戸ファッショニマート」を開設した「神戸ファッショニ産業復興支援センター」も「神戸ファッショニ美術館」に移りました。マルチメディアとライプラリーの二つからなり、アパレルやケミカルのデザインの企画や開発を支援しています。一年間で七〇〇〇人もの方にご利用いただき、今後とも引き続いてご利用いただきたいものです。

—秋にはたくさんイベントが予定されていますね。

鬼塚 十月十日から十一月三日まで「神戸ファッショニ美術館」を会場に、「ファッショニ産業総合企画展(仮称)」を行なう予定です。兵庫県、神戸市、神戸商工会議所などの支援を得て、今年で九回目をむかえる「神戸ファッショニフェスティバル」の核イベントとなるものです。神戸ファッショニの伝統と技術を通して、新しい生活文化を提案できるのではないかでしょうか。この企画展の他にも、神戸キッズコレクション、神戸デザイナー、コンボーズド、神戸ファッショニコンテスト、神戸洋菓子バラダイス、グルメイベントと見どころ満載です。多くの皆さんにお越しいただきたいですね。



力強い関学を目指して 21世紀へ、

今田 寛／関西学院大学学長

毎年、七月七日に開催される関西学院同窓会神戸支部総会に先駆けて、今年より新しく就任された今田寛関西学院大学学長に21世紀に向けての関学の将来構想、新たな指標について語っていただきました。

柚木学前学長のあとをうけてこの四月から二〇〇〇年の三月までの三年間、学長として務めさせていたところになりました。世紀末の縮めくくりであるとともに、「私学、冬の時代」と呼ばれる内外ともに大変厳しい時

期の就任ですので、その責任の重さを痛感し、力の限り努力したいと思っております。

関西学院大学は、西暦二〇〇〇年に創立百十一周年を迎えます。そこで21世紀を本学の発展の世紀にしたいとの願いをこめて、各種の記念事業が計画されています。

社会学部の社会福祉コースを社会福祉学科とするなど、21世紀を迎えるにあたって、より時代の要請に応えた教育・研究体制を整えます。また二〇〇一年の開設をめど

今田 寛（いまだ・ひろし）1957年関西学院大学文学部心理学科を卒業し大学院へ進むかたわら、58年に助手補に。専任助手、専任講師、助教授を経て77年から文学部教授。63年にPh.D.（アイオワ大学大学院）、77年に博士号（関西学院大学）を取得。学長補佐、学長代理、文学部長、理事、常任理事を歴任。心理学専攻。「恐怖と不安」「学習の心理学」「心理学の基礎」（共編著）など著書・論文多数。父は、関西学院大学法文学部長、院長、理事長も務めた故今田恵先生。

に理学部を理工学部に改組転換させ、より大きな規模として神戸三田キャンパスへの移転が予定されていますし、総合政策学部にも一学科が増設されます。学部、学科の整備・充実にともない一九九五年に誕生しました神戸三田キャンバスも、二〇〇四年度を迎える頃には、大学院生を含めて約四一〇〇人まで学生数の増加が期待できそうです。



インターネットで関西学院ホームページを好評開設中。時計台の写真をあしらったトップページを開くと、学校紹介を始め、週ごとに内容を更新するK.G.ウィークリーニュースなど情報満載。(http://www.kwansei.ac.jp/)

建築事業では、今年の十月に蔵書数百五十万冊、閲覧席一七〇〇席という全国でもトップレベルの規模と設備を誇る新大学図書館がグランドオープンいたします。またA号館から始まつた一連の学部講義棟の最後を飾るF号館も完成します。その他ではスポーツセンターの建て替えを二〇〇〇年竣工にむけて準備中です。特に卒業生の皆様にご期待いただきたいのは、関学会館（仮称・一九九九年完成予定）の新築事業ですね。教職員や学生はもちろん、同窓生や一般市民の方々にも結婚式やパーティなど多目的に利用していただけます。館内にはアルコール類も飲めるレストランをはじめチャペル、披露宴会場などを併設します。同窓会本部も設置いたしますので、同窓生の皆様には愛着をもつて母校に帰つていただき楽しみの一つとなることでしょう。神戸三田キャンバスにおきましては、先ほどの話に出てまいりました理学部の神戸三田キャンバスへの移転を前提として、ハイテク・リサーチ・センターを今年度中に完成いたします。

このように、関学はハードの部分ではかなりの変化とともに充実化が進んでおりますが、加えて私が充実を願うのは、精神面からみた「強い関学」の形成です。本学生には従来より持つてある「風・光」に象徴される爽やかさと明るさにプラスして、さらには「力」に象徴される逞しさと、粘り強い積極性を追及してほしいと思つております。これは神戸っ子も同様だと思われますが、洗練され、スマートでやさしいという従来からあるイメージに加えて、力やパンチを強める努力もするべきではないでしようか。入学式で新入生には『at your responsibility』という言葉を託しました。この表現が「自らの責任において」を意味するように、自分の意思をもつて選択、行動した結果については失敗・成功にいかわらず、自らの責任を持つて対処する。そのためには、いい意味で学生を突き放す教育も必要だと考えています。色々なことを自分で学びとる力を養つてもらうために、教育・研究システムの改善にも積極的に取り組んでいかなければならないでしよう。

明るく洗練されたイメージの関学および神戸の街に、力強さが加わることにより同校はもちろん、新生・神戸の新たな発展につながると確信しております。関学同窓会神戸支部の皆様には、今後とも関西学院大学をお支え下さいますようお願い申し上げるとともに、全世界から注目される神戸となるよう各方面でのご活躍を期待しております。

1997年10月完成 大学図書館

建物構造／地上3階地下2階

収容冊数／約150万冊

閲覧座席数／1700席

■全面開架制採用



祝・関西学院同窓会神戸支部総会

神戸で活躍する関西学院OB

<p>TKCコンピュータシステム 税理士吉川弘治事務所所長</p> <p>吉川 弘治 昭和27年経済学部卒業 昭和29年商学部大学院卒業</p> <p>村津 優子 (税理士) 昭和50年商学部卒業</p> <p>吉川 徹 昭和61年商学部卒業</p> <p>高井 慶介 昭和62年経済学部卒業</p> <p>神戸市垂水区神田町2-35 石井ビル TEL.078-705-1515 (代)</p>	<p>神戸に夢を…</p> <p>松宮 隆男 昭和26年文学部社会学科卒業</p> <p>モロゾフ(株) 取締役相談役</p> <p>神戸市東灘区御影本町6-11-19 TEL.078-822-5000 (代)</p> <p>横山 吉雄 昭和26年経済学部卒業</p> <p>横山倉庫(株) 代表取締役社長</p> <p>神戸市中央区磯上通8-1-5 TEL.078-231-5311 (代)</p>	<p>本店は、阪神・西宮駅より南へ3分。 ご家族写真などにご利用を。</p> <p>犬塚 ゆたか 昭和19年法文学部法学科卒業 いぬづか写真室 新神戸オリエンタルホテル写真室 神戸メリケンパークオリエンタルホテル写真室 代表取締役社長</p> <p>西宮市社家町1-1 (本店スタジオ) TEL.0798-35-6363</p> <p>有馬 英夫 昭和21年法文学部法学科卒業 (株)有馬芳香堂 代表取締役会長</p> <p>有馬 英一 昭和52年経済学部卒業 (株)有馬芳香堂 代表取締役社長</p> <p>神戸市兵庫区下沢通7-1-2 TEL.078-577-3581 (代)</p>	<p>中尾 作蔵 昭和16年高等商業学部卒業</p> <p>(株)共進牧場 代表取締役会長</p> <p>神戸市中央区橋通1-2-12 TEL.078-371-1761</p> <p>鈴木 治雄 昭和16年法文学部法学科卒業</p> <p>太陽鉱工(株) 代表取締役会長</p> <p>神戸市中央区磯辺通1-1-39太陽ビル TEL.078-231-3700 (代)</p>
---	--	---	---

（順不同）



竣工は2000年

新スポーツセンターの完成予想図

祝・関西学院同窓会神戸支部総会

神戸で活躍する関西学院OB

<p>澤野 和雄 昭和39年法学部卒業 (株)澤野商店 代表取締役 神戸市長田区二葉町10-2-19 TEL.078-731-9771 (代)</p>	<p>岡本 修一 昭和31年経済学部卒業 国際パールス(有) 代表取締役 神戸市中央区北野町1-5-14 TEL.078-221-8158</p>	<p>光葉 貞男 昭和29年経済学部卒業 ゴンチャロフ製菓(株) 代表取締役社長 神戸市灘区船寺通4-2-8 TEL.078-881-1188 (代)</p>	<p>新製品・新技术の開発とグローバルな 事業展開にチャレンジ!! 雀部 昌吾 昭和27年経済学部卒業 バンドー化学(株) 取締役社長 神戸市中央区磯上通2-2-21 三宮グランドビル TEL.078-232-2923</p>
<p>大峰浩美税理士事務所 大峰浩美税理士事務所所長 大峰 浩美 昭和44年商学部卒業 田淵 貴裕 平成9年商学部卒業 神戸市須磨区衣掛町4-1-25桑原ビル2階 TEL.078-733-3557</p>	<p>頭の良い子に育てる幼児教室 個性を大事にした10才までの知能教育 井上 加世子 昭和34年文学部日本文学科卒業 (有)神戸英研知能教室 代表取締役 神戸市中央区北長狭通6-3-3 フジモト神戸ビル3F TEL.078-361-0477</p>	<p>藤田 久司 昭和31年法学部卒業 (株)甲南堂印刷 代表取締役 神戸市東灘区住吉宮町1-6-3 TEL.078-811-3001</p>	<p>三輪 武 昭和29年商学部卒業 三輪運輸工業(株) 取締役社長 三輪機工(株) 取締役社長 神戸市中央区脇浜町2-11-1 TEL.078-251-5002</p>

メガバンドールハーバーランド店

神戸市中央区東川崎町1-1-7-5 TEL 078-360-4741
JR神戸駅の浜側 徒歩約5分 キャナルガーデン沿い
営業時間／10時～21時 水曜不定休

充実の品揃えとサービスで アウトドアライフを応援

テマを絞り込んだフロア構成で、震災後に復興オープンしたメガバンドールハーバーランド店。中でも日本一の売場面積を誇るアウトドアライフのコーナーは、初心者から上級者までの幅広いニーズに応えるラインナップに定評あり！



↑ボディボード、ウェイクボードに続いて注目の波乗りアイテム、スキムボード

←収納・組立も簡単な三脚式バーベキュースタンドは男を少年にする

JR神戸駅の南側、ウォーターフロントに広がるハーバーランド。ショッピング・レジャー・スポーツが集まるこのエリアのほぼ中心にあるのが「メガバンドールハーバーランド店」だ。

同店は、震災後の95年11月に「ダイエーハーバーランドシティ」跡の2・6階部分に復興オープン。スポーツ、アウトドアライフ、マルチメディアを中心豊富な品揃えを誇る。また、情報サービスも充実した生活提案型の店舗として、神戸っ子はもちろん近畿全域でもすっかりお馴染みとなっている。

自然をテーマに楽しもう



さまざまなタイプのテントとともにキャンプ用品が賑やかにディスプレイされて、楽しい雰囲気いっぱい。経験のない人も、きっとキャンプに行きたくなる

さまざまな楽しみ方を提供

子供の頃から、スキーやキャンプなどで自然に親しんできた森支配人は、アウトドアライフのキャリア十分。これまで家族で楽しむスタイルが多かつたが、最近ではひとりで楽しむオフロードバイクでのツーリングも始めた。当店では、単身からファミリーなど大人数まで、あらゆるニーズにお応えできる品揃えとサービスを目指しています。自らの経験も生かして、さまざまなアウトドアライフの楽しみ方を提供していきたいですね！



●支配人に聞きました

森幹彦さん

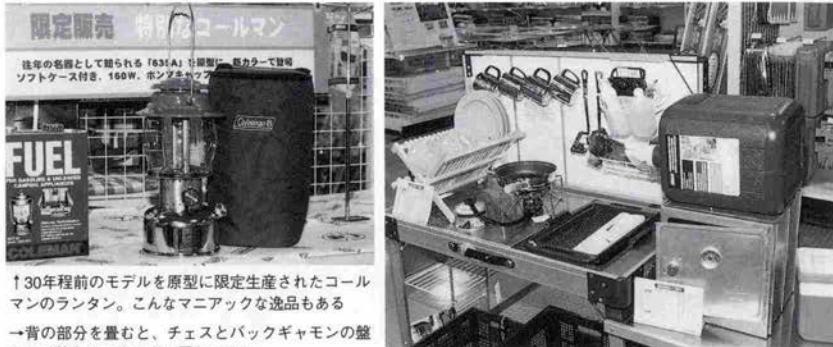
メガバンドール
ハーバーランド店
支配人



GPS機能搭載だから、どこでも現在地を知ることができるのだ



遠赤外線の効果で炭火焼のおいしさを味わえる、その名も「串焼ろばた」。家庭で使っても便利かも



↑30年前のモデルを原型に限定生産されたコールマンのランタン。こんなマニアックな逸品もある

→背の部分を畳むと、チエスとバックギャモンの盤として使えるアウトドア用キッチン

取り扱っている分野に関しては、初心者から上級者まで、幅広く対応するラインナップになっています。これが欲しいと頼めば全力で探してくれる。これが欲寄り寄せ体制も万全だ。またフィールド情報サービスもあるし、スタッフはアウトドアライフの達人が多いから、何でも気軽に相談してみよう。

神戸はすぐ南に海、北には山、もちろん川もあるという恵まれたロケーション。この自然を満喫するために、ぜひこまめに足を運びたい店舗だ。

ムがすりと並ぶ。そして3階は丸ごとシーズンスポーツコーナー。スキー、キャンプからハイドウォッキング、カヌーなど、四季が設営され、合わせて各種グッズがデイスプレイされている。眺めているとフロアの各所には、テントやパラソルが自然の中に飛び出したい気分。

何でも気軽に「相談下さい



エスカレーター前にドーンと建っているログハウス。もちろん商品として扱っていて、土日には専門の人が無料相談を受け付けている



フランス製のガーデンパラソルが今、人気上昇中。色は白と緑がある